

平和で豊かな沖縄県を目指す情報誌

無料

ご自由にお持ち  
帰り下さい

# 沖縄協会だより

2022.11

No.25



村田省蔵 作

## 遥かなる摩文仁の丘

号数：F100

村田省蔵

昭和4年生 石川県出身

画歴：金沢美術工芸大学洋画科卒、小糸源太郎に師事。光風会展賞、日展特選、日展菊華賞、北國文化賞、日展内閣総理大臣賞、文化庁現代美術選抜展出品、恩賜賞・日本芸術院賞。日展常務理事、日本芸術院会員。

制作意図：胸迫る想いで沖縄南部の激戦の跡を訪れる。戦いに果てた多くのみ霊を慰め、心から平和を祈念して摩文仁の丘をしるす。燦々と降り注ぐ眩い太陽。喜びも悲しみも呑み押し黙る碧い海。みどり葉の繁るこの島に永久に平和が続くことを希って……。

額サイズ：縦×横×厚【152×185×11.5 cm】（昭和59年1月13日寄贈）



沖縄協会は、沖縄が本土に復帰するまでの間、各種の援護活動を行った特殊法人南方同胞援護会（昭和31年～47年5月）の後を受けて、昭和47年9月20日に設置された内閣府所管の公益法人です。新たに設立した財団法人沖縄協会は、南方同胞援護会の実績と経験を活用して、沖縄の振興施策に積極的に協力し、平和で豊かな沖縄県の建設に寄与してまいりました。平成23年（2011）4月1日、沖縄協会は内閣総理大臣より公益財団法人として認定を受けて「公益財団法人沖縄協会」として新たな一歩を踏み出しました。これからも、沖縄県の健全な発展と幸福な社会形成に役立つ事業を行いながら、沖縄平和祈念堂を管理運営することで、平和で豊かな沖縄県の建設に貢献していきます。

公益財団法人 沖縄協会





【写真提供：琉球新報】

## 故郷への想いと感謝を込めて

高山厚子 沖縄修学旅行アドバイザー

私の故郷は沖縄。沖縄県となつて今年で50年。沖縄戦終結から77年。

私が本土の地を踏んだのは、戦争終結から約10年後の中学2年生の時。沖縄の子ども達に夢を与えようと、関西の大学生達が募金活動をし、4人の中学生を招いてくれたのです。京都の宇治中学校や生徒の家にも宿泊したり等、見るのも食べるのも、全てが異文化であった。中学時代から沖縄の事を雑誌等に投稿し、全国の人と文通もしていた。琉球大学を卒業後、米留へ行くはずの私が、何故か、復帰前、約55年前に、パスポートを持って上京し、原宿の貿易商社勤務。2年後に東京都小学校教育員に。2人の子を出産、2人を流産。保育園や学童保育もまだ少なく、頼る人もいない東京で、私を救ってくれたのは出会った方々でした。

「イチヤリパチョーデー！ 出会う人はみんな家族のように。真心と真心で接すれば、必ず通じ合う」という沖縄の精神や、祖母や母から教わった料理が縁を紡ぎ、多くの人の協力のおかげで、今日があります。

退職後は、様々な沖縄に関わっている。学校週5日制導入時には、文科省所属団体の沖縄担当になり、3年間で15団体を立ち上げ、最終日には、宮城県女川町から1500匹のサンマをいただき、サンマが空を飛んできた」のイベントを何と1000人が並んで那覇の中学校で開催。25万人も集まる東京ドームでのテールウェア展に「沖縄プー」がない。観光に繋がる」と、訴え実現へ。また、窓

辺にゴーヤーやヘチマ等を這わせて地球温暖化の環境問題への取り組み、第回の全国大会を那覇にて開催。ゴーヤーは沖縄のものですよ」と、「緑のカーテンの恵みを食べよう」の本を自費出版し、全国にて沖縄の食材を紹介。最近では、今帰仁の復帰記念の建物に全国のプロの塗装グループ60人を連れ、3日間で赤い柱を復元等々、まだまだありますが、沖縄の何かが見えると、動き出す私でした。

何故、こんなにも、自分を走らせるのか。

それは、沖縄の大地が、沖縄の歴史や文化が、沖縄戦や戦後を生き抜いた人々の想いが、沖縄魂が自分を走らせているのかもしれない。父や母や、恩師や友人達の心の願いが動かしているのかもしれない。

現役の校長時代から、近隣の高校等から、沖縄の文化や食、戦争の事など話して欲しいと依頼されていた。制度化に向けて動いたのは言うまでもない。修学旅行アドバイザーが制度化され、その一人として、全国行脚をしているこの頃です。

私の講話は、平和教育を主にしていますが、学校のどんな要望にも応えながらも、必ず、沖縄の礎となる地理や歴史、文化や食等、沖縄の人が大切にしている風習なども話す。話すからには、沖縄の現状をこの目で見て知って、体験してと、あるユネスコの団体を自ら引率し新たな視点をも見つける。フェンスの向こうの基地も含めて

戦後も校長であった父が、死ぬまで戦争のことを話さずに死んでいったこと。何故、教育者であり、

教える子を戦争に送ったのに話せないのかと、悪態をついた私。その父が残したたった一つの句「この夏も 賽の河原の積み石が 宿命の島沖縄の子らに姉の本で出会った時、語らなかつたのではなく語れなかつた」のだと。母もひめゆり同盟の先輩だが語らなかつた。死ぬ1年前に、ひめゆりのガマに泡盛を捧げながら涙していたそうだ。恩師なども同じであった。何故？と、私は己に問いながら生徒の心に訴える。何故？と。最近、平和祈念堂や平和祈念公園を訪れない学校もある。琉球大学の恩師でもあった大田知事の平和の礎への想い等から、一家全滅した「三の長女・長男」など名前のない子の印字が何故あるのか？その子たちも未来に生きたかった、ラーメンも食べたかった、喧嘩もしたかった……あの子ども達の分まで未来は平和であって欲しい！との心を伝える。語らなかつたのではなく、語れなかつた父の想いも「あの子供達の分まで未来は平和であって欲しい」と気づいた時、私は涙が止まらなかつた。又、米軍の記録担当のバーンスさんも、死ぬまで沖縄戦については語らずに亡くなった事、等々から「戦争は人が人でなくなる。自分が自分でなくなる」等、生徒の実態に合わせパワーポイントを利用して講話している。

「平和って何？」ヌチドウドウ宝の沖縄から、広島から、長崎から、今も起こっている戦争から学んで」と結び、そして、宿題を出す。「沖縄から帰ったら、自分の故郷の良さを改めて探してね」と。又、

ある支援学校の生徒が「学校では言も喋らなかつたのに、沖縄の修学旅行から帰ってきたら学校でも話すようになった。沖縄の何がその子を変えたの？あなたの方がその答えを見つけてきてね」と、終わる。  
豊かな時代に生きる日本の未来人へ、希望を託して、私は、沖縄を語り、綴っていく。平和への心をバトンタッチしていく。



講話の様子



リモート講演中の様子

【写真提供：高山厚子さん】



## ★天皇皇后両陛下の来堂

10月22日、天皇皇后両陛下が、美ら島おきな  
わ文化祭2022（第37回国民文化祭、第22回全  
国障害者芸術・文化祭）開会式出席などにあわ  
せて即位後初めて来県され、沖縄平和祈念堂を  
訪れた。両陛下は皇太子時代（1997年）にも  
訪れており今回で2度目。

平和祈念堂では両陛下を清水治当協会会長と  
上原良幸副会長、新垣昌頼専務理事がお出迎え  
し、清水会長のご案内により沖縄平和祈念像を参  
拝された。



天皇皇后両陛下をお出迎えする清水会長 【写真提供：沖縄県】



## ★沖縄・奄美大島・鹿児島

## 「第24回和合の茶会」

8月25日、一般社団法人茶道裏千家淡交会による  
沖縄・奄美大島・鹿児島「第24回和合の茶会」平和祈  
念堂茶式が平和祈念堂で開催され、県内外からの  
会員・来賓の方が250人余が参列した。茶道裏



千家前家元鵬雲斎千玄室大宗匠による献茶の儀  
は、戦没者慰霊と恒久平和を祈念し、平和祈念像  
に二盃の茶を恭しく献じた。平和祈念堂における  
千玄室大宗匠の献茶は9回目。今回は、今年の沖縄  
全戦没者追悼式に選ばれ朗読された、沖縄市立山  
内小学校2年生の徳元穂菜さんの平和の詩「こわ  
いをして、へいわがわかった」の朗読があり、千玄  
室大宗匠は徳元さんの朗読を聞き、その想いを受  
けて戦争と平和や自身の悲痛な戦争体験を語り、  
世界の社会情勢を憂うとともに、あらためて茶道  
をととして世界の平和実現を訴えるメッセージを  
述べた。

## ★糸満平和祈念コンサート Vol.6

8月28日、糸満平和祈念コンサートVol.6（主  
催・糸満平和祈念コンサート実行委員会）が平  
和祈念堂で開催され、約120人の聴衆が訪  
れた。平成27年の戦後70年の節目にコンサート  
は始められ今回で6回目を数える。このコン  
サートは沖縄戦で亡くなった方がたの鎮魂  
とふるさとの平和を祈る強い思いを込めて開  
かれている。出演はソプラノ歌手の宮平真希子  
さん、松永知史さんの伸びやかで美しい歌声  
に、ギターのノエル・ピリングスリーさん、三線  
奏者の棚原健太さんの素晴らしい演奏が加わ  
り聴衆を魅了した。

今回、特別ゲストに小学生の半澤ハナさんが  
ギターを演奏し、その見事な演奏に大きな拍手  
が送られた。

★ライオンズクラブ国際協会337-D地区  
ガバナーによる記念植樹

10月19日、ライオンズクラブ国際協会337-D地区  
ガバナー川田代泰和氏による沖縄公式訪問の記念植樹  
が堂宇前庭で行われた。川田代ガバナー他10人の会員  
が参加し、植樹に先立ち沖縄戦全戦没者慰霊の黙祷を  
行った。植樹は川田代ガバナーと沖縄リジョンの喜名景  
勝リジョン・チエパーソンが行い、その後「平和の鐘」の  
献鐘、平和祈念像を参拝した。





## ★2022年度

### 勉学支援生の決定

7月、当協会が実施している「沖縄青少年勉学支援事業」(6月30日応募締切)の審査委員会を審議により行った。

厳正慎重な審査の結果、1人を新規の勉学支援生にすることを決定した。本年度の勉学支援生は前年度からの継続者8人を加え、合計9人。一人あたり年額60,000円の勉学支援金が給付される。昭和49年に始まった本事業は令和元年度未までに延べ1,163人の沖縄青少年に支援を行い、514人が卒業し習得した資格や技術を活かして幅広い分野で活躍している。

## ★高良義雄基金の増額

7月30日、勉学支援金「高良義雄基金」を設置している高良義雄さんから指定寄付として100,000円が寄せられた。これにより「高良義雄基金」は3,900,000円となり、「働きながら学ぶ沖縄青少年支援基金」の総額は67,869,000円となった。



## ★金城芳子基金へ100万円の

### 寄附金

9月5日、崎山朝子さんから指定寄付として1,000,000円が寄せられた。これにより「金城芳子基金」は11,320,000円となった。

## ★第31回金城芳子基金募集案内

【金城芳子基金】は、沖縄女性の地位向上のために献身された金城芳子さん(1902-1991)の強い意志により、そのご遺族によつて1992年に当協会に設置され、沖縄女性のため、社会的に意義のある活動や調査研究を行う個人及び団体グループに助成している。

第30回までに30の個人・団体に助成を実施した。第31回の応募締切は2023年3月31日。当日消印有効。

## ★沖縄平和祈念堂改修工事に

### 伴つて寄付のお願い

開堂から44年を迎える沖縄平和祈念堂では、現在、経年劣化による改修工事を頻繁に実施しております。今後、さらに工事の必要が考えられますので、多くの皆様に諸経費に対するご寄付を賜りますようお願い申し上げます。ご連絡いただきましたら、ゆうちよ銀行専

用振込票を送付させていただきます。

公益財団法人 沖縄協会

【電話番号:03-6231-1433】

【FAX:03-6231-1436】



# 沖縄出身画家紹介 14

南の島 読谷山 朝典 作

読谷山 朝典 大正8年 沖縄県生

### 【画歴】

東京美術学校油絵科卒。光風会展入選、日展入選、光風会会員、成蹊中学・高等学校美術教諭。昭和56年6月没。

### 【制作意図】

昭和54年の欧州旅行の際のエーゲ海を素材にしてまとめた。光風会展出品のため、病気を押して描き続け、入院前日の午後半日をかけて仕上げた最後の作品。画伯の執念があふれている。

号数: F80



沖縄平和祈念堂美術館

